

大通公園を望む窓辺から

人生100年時代に思う

常任理事 目黒 順一 めぐろ じゅんいち

母が100歳になる（1922年—大正11年9月9日生）。約20年前に右大腿骨頸部骨折により人工骨頭が入っているものの、内臓疾患はない。年齢相応の難聴はあるが、認知機能もほぼ正常である。1952年に現在地で軍手製造業に始まり、呉服屋、衣料品店と形態を変えながらも一貫して店舗を構え、今も独居で商いを続けて70周年（父は18年前に他界）。そんな母が、昨年と今年の終戦記念日前後の特集で突然マスコミ（テレビ、新聞）に出た。1939年に着工し、1941年に稼働した北海道人造石油（人石～ジンセキ）に、1942年の20歳から約3年間人事課の職員として働いたとのことであり、しかも唯一の生き残りであった。ちなみに父も当時の購買部勤務であった。父のことは聞かされていたが、母については兄共々全くの初耳であり、これには驚いた。人石は太平洋戦争開戦前から石油資源に乏しい（当時は90%が輸入）わが国において、継戦目的の国策として今の価値で約1兆円をかけて滝川町に建設された。しかしながら、ドイツの技術を導入したものの、当時は技術的に大きく立ち遅れており（しかもドイツは特許の一部しか公開しなかった）、生産量は極めて少なく（一説には4年間で3万トン以下）、やがて敗戦に伴いGHQから操業停止を命ぜられ、倒産に至った。その1年ほど前に、母は満州に渡り、敗戦と共に引き揚げ船で命からがら戻り、暫くして現在地で商売を始めた。

いつの時代でも戦争は資源（エネルギー）の獲得競争を契機に勃発することが多く、その帰趨を決する重要な要素と思われ知られる。今のウクライナ戦争は領土問題等がきっかけとされるが、ヨーロッパ各国はロシアによるガスの供給制限により経済的に逼迫しつつあるし、日本も想定以上の物価上昇や円安に苦しんでいる。母の人生史を聞かされ、改めて平和な日常生活が有難く思われる。

地元で親戚だけ（コロナ禍の人数制限）の「百寿祝い」を予定しているが、お客さんや飲み仲間の多い母は宴会やお祭り騒ぎが大好きなのに、少し可愛そうである。せめて当時の話を聞きながらたくさん祝ってあげようと思う。



オンライン資格確認を導入して

理事 滝山 義之 たきやま よしゆき

令和5年4月から「オンライン資格確認の原則義務化」がされます。日本では行政サービスや医療の分野で、諸外国に比べてICTの利用が遅れており、国は今回の医療機関におけるオンライン資格確認を導入して質の高い医療を提供していくデータヘルス計画の進展を目指しています。マイナンバーカードを用いてのオンライン資格確認では、患者同意の下で健康保険証の情報だけでなく特定健診等情報や薬剤情報も得られます。骨太方針2022では、令和6年度中を目途に保険者による保険証発行の選択制の導入を目指し、さらに導入状況等を踏まえ、保険証の原則廃止を目指しています。マイナンバーカードは、60歳から74歳までの50.1%が交付済みで、今後外来受診時のカード対応が必要になります。

医療機関のこのシステムの導入には、国からの補助が出ますが、当院では3月の末にポータルサイトに導入に伴う補助申請を行いました。導入までの実際を報告しますが、申し込みはインターネットで行いましたが、簡単で、返事も数日でありました。この資格確認には、NTTの光回線が対応するとのことで、NTTの担当者から連絡があり、それから以後はNTTとのやり取りが主になりました。次に行うのはパナソニックや富士通など5社から出ているカードリーダーを選ぶことです。受注生産、半導体不足のためか納入には約4ヵ月かかりました。カード情報の読み取りはレセコン、電子カルテにつなぐ方法と、PCで見る方法があり、当院ではPCで見るのを選択したため、さらに2ヵ月かかり、光回線の工事、最終的にオンライン資格確認の導入完了まで6ヵ月かかりました。実際の運用はこれからですが、導入してみて、1) 導入までの時間が数ヵ月かかるので、令和5年4月まで導入開始まで早めに申し込む必要がある、2) AUが使用できず、NTTの回線が必要（独占?）、3) 高齢者がマイナンバーカードに保険証を登録するか疑問、実際の利用率は?、4) 使いこなすには時間がかかりそう、などが問題点としてあります。オンライン資格確認の原則義務化される令和5年4月までに、早期のシステム導入、使用に習熟する必要があるようです。